

つまずきを 解消するための 支援の工夫

全ての子どもたちの
健やかな成長を願って



大竹市キャラクター
コイちゃん

大竹市立小方小学校
広島県大竹市小方ヶ丘1番1号
E-mail:ogatacco@fch.ne.jp

家庭学習への支援 ～自立した学習者を育てる～

ポイント I

放課後学習教室の設置

学力に課題がある子どもたち（対象：2～5年）を中心として、放課後に家庭学習のサポートを行いました。このサポートにより、家庭学習の習慣が身に付き、学校での学びの姿にも変容が見られました。



課題を把握
分析したものを共有
支援方法について検討



放課後学習教室
フォローアップ教員
研究推進教員

共有

学級担任

子どもたちの学習の様子から

- 学習定着状況を把握
- つまずきの様子や支援の効果について分析

特別支援教育の視点（ユニバーサルデザインの視点等）をベースにして

- 授業改善
- 支援計画の修正

成果

続ければ子どもの学びの姿は変わる

子どもたちが、宿題をしてこないことを子どもの努力のせいにして終わらせてはいけません。学校で学んだことがよく理解できていない、家が学習する雰囲気になっていないなど様々な原因があります。放課後学習教室は、わからないときにはいつでも教えてもらえ、安心して学べる場として、学習意欲の向上に大きな役割を果たしました。

組織体制の強化

ポイント II

～子どもたちをみんなで支える～



小学校は、学級担任が一切の責任を負って取り組んでしまいがちです。しかし、学カフォローアップ校事業の指定を受け、教職員同士の横のつながりを意識した組織体制の強化を図ったことで、一人の子どもを様々な視点からとらえることができ、よりよい支援を工夫して行うことができました。一人の子どもをみんなで見守り、その子の成長を喜び合うことができました。

また、授業研究では、縦のつながりを意識した授業実践を積み重ねたことで、ゴールを見据えた教材の捉え方や子どもの学びの姿について考えが深まり、子どもの学びの状況を分析する力や必要な支援について考える力がつきました。

子どものつまずきを解消するためには、子どもを支えるわたしたちのネットワークを強化することが何よりの近道であること、子どもの状況を共有化したり子どもの変容を様々な視点で見守る力をつけたりすることが大切だと気づきました。

児童の変容

A 児：授業中一生懸命気配を消し、困っていることを知られないようにしていました。放課後学習教室に来た最初の頃は、ランドセルの中のものばらまいて必要なものを取り出していました。「漢字なんか覚えなくていいの。」と豪語していた頃の字は、マスに入らず、横画の数が違う、点の位置が違うなど課題だらけ。今では、分数のたし算引き算の通分約分を間違えず、もちろん漢字もばっちり立派に学習しています。

B 児：視覚刺激に過剰に反応してしまうので、落ち着いて学習することが苦手です。算数の表の整理の学習の時に情報を読み取るむずかしさを感じ、自分でそのことを訴えてくれました。刺激を減らす支援、情報の見方の方略を支援すると、学習意欲が高まり、困ったときに必要な支援を要求することができるようになりました。

指導法の改善

ポイント III

～つまずきを解消する最善の策～

構想から実施まで組織的に研究し、実践を積み重ねる

PLAN

事前協議

授業者、学年担任、研究主任、研究推進教員で授業プランを検討
単元構想の決定
＜教材分析・子どもの実態分析・目標分析＞を教職員の協働的な学び合いにより検討する。
具体的な支援の決定
授業のユニバーサルデザイン化（視覚化・共有化・焦点化・構造化・身体性の活用）等特別支援教育の手法をベースに考える。

DO

研究授業

つまずきの大きい児童の様子と支援の効果を中心に観察



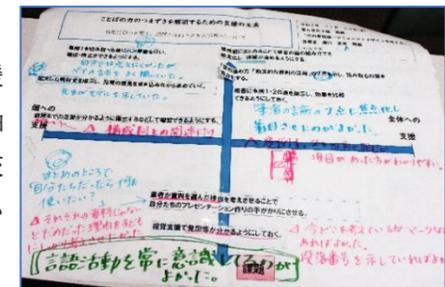
授業者の支援計画に沿って、観察シートに気付いたことをメモする。対象児童への支援の有効性を中心に観察する。

CHECK

研究協議

観察した子どもの様子を交流し、効果的な支援について研修

各自の観察シートをもとにグループごとに支援の有効性について座標軸で分析する。その後全体交流で、よりよい支援について共通認識を持つ。



ACTION

日々の実践に生かす

よりよい支援、指導法の改善へ

改善した指導法（例） <http://members.fch.ne.jp/ogatacco/15kyomu.html>

- <2年>わり算につながるかけ算九九の指導法
- <3年>要約力を育てる読解指導法
- <4年>わり算筆算の指導法
- <低学年>読みの流暢さを目指したひらがなの指導法
- ～小数のわり算までを見通した計画的な指導法～
- ～多層指導モデル MIM を活用して～

実践発表会アンケートより(R2.12.24 実施)

指導にあたって児童のつまずきをまずしっかり分析をし、実践を繰り返すことが必要だということがわかりました。また、先生方の情報共有も大切なものになると思いました。あとは、縦のつながりをより意識していくことが必要だと思いました。本校は小中一貫教育校でもあり、ある学年の時はこの方法で計算をやっていたが、今はこうやってみてと言われるといったことが起きると、子どもたちが混乱すると思います。9年間を意識した指導をしていくことが必要だと感じました。